

## 新年のご挨拶

東日本紙器厚生年金基金

理事長 北原 茂樹

新年明けましておめでとございます。

日頃より東日本紙器厚生年金基金の事業運営に格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、皆様には、多大なるご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

昨年は、基金財政の健全化に寄与する一定の基盤を整備することが可能となったなか、平成26年4月施行の法律改正による厚生年金基金制度見直し法の対応につき委員会等で検討を重ね9月の代議員会において基金解散の方向性（後継制度の検討も含む）を決定したことにより、事業主様に説明会を致しご理解をいただいております。

これにより、今後、基金解散へ向けた準備（手続き）を進めてまいります。今回の決定はあくまでも代議員会としての方針決定であり、解散にあたりましては事業主様、加入員様の3分の2のご同意が必要とされております。また、解散の手続きとしましては基金と国の記録の突合を経て基金の記録整備が完了したのち、代議員会の解散決議を経て、厚生労働省への解散認可申請を行うこととなりますが、ご同意の手続きはその直前に行うことと時期が指定されておりますのでしばらく先の時期となります。この手続きにつきましては、改めて別途ご案内させていただきます。

基金の記録整備には二年程度を要すると推定されるため解散の予定時期は平成29年頃と見込まれますが、それまでの年金資産運用においては国（厚生年金保険）の運用にできるだけ近づけることにより代行割れが拡大しないように努めてまいります。併せて、後継制度（確定拠出企業年金と確定給付企業年金）創設について委員会等において検討を重ねてまいりますので、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、当基金は設立以来四六年を経過し、平成26年9月末の加入事業所436社・加入員8248人・年金受給者8970人・年金資産保有高305億円という状況です。

結びにあたり、皆さまのますますのご健勝と、今年一年が更なる発展と素晴らしい年になりますことを祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成27年 元旦